



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ④

里山の春を満喫 総領なの花まつり

第2回総領なの花まつりが4月18日、総領町のなかつくに公園で開催されました。

灰塚ダム建設によって整備された「なかつくに公園」には、クラスタのまち実現プロジェクトの一環として、1.3畝約15万本の菜の花が植栽されており、その開花にあわせての催しとなりました。

菜の花畑の周辺をのんびり歩く「なの花ウォーキング」などのイベントのほか、フラダンスサークルくちわエンジェルのフラダンス、県立広島大学アイリッシュミュージックサークルのコンサート、庄原市出身歌手の上杉千恵美さんによる歌謡ショーなどが行われ、地域団体の出店も並び、多くの人で賑わいました。



▲菜の花を観賞しながらウォーキング

高齢者の交通事故防止を願う 交通安全高齢者グラウンドゴルフ大会を開催

REPORT ⑤



▲グラウンドゴルフも交通安全もルールが第一

市と庄原地区交通安全協会が4月5日、春の全国交通安全運動の一環として交通安全高齢者グラウンドゴルフ大会を総領町田総の里スポーツ公園グラウンドゴルフ場で開催しました。

大会には、交通安全協会の庄原、西城、総領の各分会員をはじめ、庄原グラウンドゴルフ協会の会員など約150名が参加しました。

開会式では、交通安全協会北分会長が「安全、安心な庄原市の実現のため、この大会を契機として交通安全意識の高揚と交通マナーの一層の向上に努める。」と交通安全宣言を行ないました。

参加者は「大会に参加し交通安全への意識が高まった。交通事故に遭わないために、グラウンドゴルフと同様にルールを守りたい。」と話していました。

REPORT ⑥

来た!見た?乗った!ひばごんバス 西城地域生活交通バスに新型車両を導入

西城地域では3月23日から、車体に大きくヒバゴンの親子が描かれた「ひばごんバス」が走り始めました。住民の方に愛着をもってほしい、生活交通路線をみんなで守ろうという願いをこめて、西城のシンボルキャラクター、ヒバゴンを描いています。

このバスは、高齢者や障害のある方が利用しやすいように、車椅子でも利用できるステップリフトの機能を備えています。

4月4日には、「ひばごんバス」のおひろめ試乗会が開催され、約100人がおおよそ30分の試乗を楽しみました。利用者は、「かわいいヒバゴンバスに乗れてうれしい」「このバスを見るとなんだかうれしくて、町が明るくなったよう」と話していました。

ヒバゴン出没から40年目の今年、西城では、地域の魅力をヒバゴンに乗せて発信しようと様々な活動を計画中です。



▲ヒバゴンの案内でバスに乗り込む参加者

新生児の健やかな成長を願う 新球場で庄原赤ちゃん写真展

REPORT ①

3月30日～4月4日の広島東洋カープ地元開幕戦オープニングイベントとして、庄原赤ちゃん写真展がマツダスタジアムで開かれました。

昨年、広島東洋カープ・地元写真家連合会・市の3者は、新生児応援プロジェクトで、新生児にカープ特製色紙用の無料撮影チケットを配布。このチケットを



▲松田元オーナーと一人ひとり記念撮影

利用し撮影した写真を、写真家の金山一宏さんがパネル(170センチ×170センチ)にして、球場入口とバックネット裏の2カ所に展示しました。

4月4日には、「満1歳・庄原赤ちゃん大集合ツアー」が行われ、モデルとなった赤ちゃんやその家族など総勢49人が庄原市から貸切バスで球場へ出かけました。家族は自分の赤ちゃんのパネルを見つけると大喜びで、松田元オーナーと記念写真を撮り、その後試合観戦を楽しみました。息子の航太郎君と参加した杠美枝さん(東本町)は「一生の記念になり、本当に来て良かった。また企画してほしい」と喜んでいました。

写真展を企画した写真家の金山一宏さんは「庄原市で子どもを産むと楽しいと思ってもらえるように、今後もこのような活動を続けていきたい」と話していました。

カープ特製色紙の配布は昨年で終了しましたが、新生児への無料撮影チケットの配布は今年も続けています。

REPORT ②

街道東城路を巡る 春爛漫 東城まちなみ春まつりが開催

東城のまちなみ約600mに、各家に伝わるひな飾りなどが並ぶ、東城まちなみ春まつりが4月10日から4月18日にかけて開催されました。

10日にオープンした東城まちなみ交流施設「えびす」のイベントステージで、比婆荒神神楽がオープニングを飾り、春まつりがスタートしました。

今年で5回目を数える春まつりは、縁結びの松や桜を愛でながら散歩が楽しめるまちなみを会場に、ひな人形や生け花などの作品展示、絵手紙やコマ回しなどの体験メニューのほか、コンサートなどのアトラクションが行われ、地域住民との交流やおもてなしを楽しむ人でにぎわいました。



▲ひな飾りがお出迎え

いにしへの里を広く紹介 「常定自治会が案内板を製作」

REPORT ③



▲遺跡などの付近へもわかりやすく案内

口和町の常定自治会では、市の自治振興区活動促進補助金を活用し、地区内の遺跡や名勝を紹介する案内板を地区内3カ所に設置しました。

案内板は、縦1.8メートル・横1.5メートルの大きさで、地域のイラスト地図を中心に、6世紀後半頃の土器が発掘された古墳をはじめとした地域の見どころ15カ所を紹介。また、見どころ近くの市道には小さな案内板を設置し、すぐに場所がわかるようにしています。

地域の方々は、「常定地区は、歴史深い遺跡、洞回りが3mを越えるヤマザクラなどの自然も多い。魅力あるスポットを知ってほしい。」と話しています。

REPORT ⑩

小児科医へ感謝の気持ちを届ける 庄原の小児医療を考えるひだまりの会

医師の負担を減らすことで小児医療を守ろうと活動する「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」が3月25日、日ごろ抱えている感謝の気持ちを伝えようと、庄原赤十字病院小児科の金丸博医師と香川礼子医師に「ありがとう」メッセージを贈りました。

この春、転勤で庄原市を離れる医師2人に対し、メンバーたち28人は「いつも素敵な笑顔でやさしく接していただき、親子の安心感につながった」「またいつか庄原に帰ってきてください」などとメッセージを寄せ書きし、画用紙(40センチ×50センチ)に貼り付けました。

小児科を訪れた母親5人と子ども8人は、医師2人を囲んでメッセージを贈ると、金丸医師は「ありがたいし、励みになる。庄原に来て良かった」と満面の笑みを浮かべて感謝の言葉を述べました。

メンバーは「先生が庄原市のことを大切に思ってく

ださるのがうれしかった。これからも小児医療を守るために、先生のためにできることをしていきたい」と話していました。



▲ありがとうメッセージを贈る子ども

釜峰山をより魅力的に 「地元自治会がミツマタを植樹」

REPORT ⑪



口和町を代表する山、釜峰山の登り口を「湯木釜峰山ミツマタ公園」として整備するため、3月28日にミツマタの記念植樹を行いました。

地元の湯木釜峰自治会(松島均会長)が広く呼びかけると、世代性別を問わず多くの方が釜峰山に集まりました。淡く美しく咲いているミツマタ100本と八重桜10本をみんなで一つひとつ植えました。作業のあと植えたミツマタを眺めながら、地元青年会からふるまわれた抹茶を味わいました。

自治会は、遊歩道をはじめ一帯を整備してきたことから、この植樹で森林浴公園としてより魅力的なスポットになるのではと期待しています。

◀美しい公園づくりを願って植樹

REPORT ⑫

比和小学校の屋内運動場が完成 落成を祝う会が行われました。



▲屋内運動場に全校合唱が響き渡る

比和小学校屋内運動場の落成を祝う会が3月14日、屋内運動場の落成を祝う会実行委員会が主催し行われました。

完成した屋内運動場は、比和町内の小学校の適正配置に向けて、改築が待ち望まれていました。保護者や地域の方々などがお祝いにかける中、児童たちは全校合唱で感謝の気持ちを伝えました。

鈴木典子校長は、「児童たちの学びの充実につながり、また、地域の方々が集う場になるよう大切にしていきたい。」と話していました。



▲完成した屋内運動場

住民手づくりの郷土誌を発刊 「東地区の歴史」が完成

REPORT ⑦



▲郷土誌の完成を喜ぶ林正勝美区長(右)と原田洋三事務局長(左)

東自治振興区がこのたび、「明治の大合併」(明治22年)で誕生した「恵蘇郡山内東村」の120周年を記念して、住民自らによる初の郷土誌『東地区の歴史』(206ページ、B5版、箱入り)を刊行しました。

平成19年度から資料収集を始め、住民から寄せられた225項目もの膨大な話題をもとに編さんし、地域住民など30人以上が執筆を分担しました。

この本は、幻の郷土玩具「田原人形」を紹介する「口絵」をはじめ、地域の主要トピックスを要約する「第1章 郷土散策ガイド」、古写真や民話・作業歌を掲載する「第2章 ふるさとの思い出」、東地区の自然と歴史を詳述する「第3章 東地区の生い立ち」、現在の状況を未来へ伝える「第4章 東地区のいま」で構成されています。

また、市内最大の「旧寺古墳群」(5世紀)、県下最大の「国兼池」(17世紀)、日本最古の「国立七塚原種牛牧場」(19世紀末)などを紹介し、編集委員は「地域資源を再発見できる『地域の教科書』」と話しています。

総事業費は390万円で、うち270万円は市補助金を活用。1600部を印刷し、自治振興区内の約1300世帯へ無料配布しました。林正勝美区長は「みんなが知恵と工夫を出し合い、地域がまさにひとつになってできた地域の宝。」と話しています。

REPORT ⑧

「高暮ダムの歴史を風化させない」 ～高野人権講座を開催～

「高暮ダムの歴史を語り継ぐ」をテーマに、高野人権講座が3月5日、上高公民館で開催されました。

最初に、庄原市と庄原市教育委員会が制作した人権啓発DVD「心の靴をぬいで」が上映されました。これは、高暮自治振興区が主催する「第10回高暮平和の集い」を題材に作成したもので、日朝友好追悼の取り組みについて学びました。続いて、高暮地区の草谷末廣さんが「私の知る高暮ダムの歴史」と題して、講演されました。朝鮮半島からの労働者強制連行によってダムが建設されたという史実を学んだ参加者は、「市外から嫁いできて、悲しい歴史を初めて知った。これからは平和の集いを続けてほしい。」などと話していました。

なお、この人権啓発DVDと併せ、副読本となるリーフレットが作成されています。



▲高暮ダムの歴史を語る草谷末廣さん

ブロードバンドを活用しよう！ ～NEXT SHOBARA IIが開催～

REPORT ⑨



▲情報発信講座を聴く参加者

携帯電話や高速インターネットの利便性と可能性を身近に感じてもらうと、3月20日(土)、記念イベントである「NEXT SHOBARA II」(NEXT SHOBARAイベント開催実行委員会事務局 関西ブロードバンド(株)主催)が開催されました。

当日は、携帯電話やネットショップの活用術などの講演のほか、情報技術の体験コーナーや無料パソコン教室が行われ、会場となった庄原市ふれあいセンターには約500人の市民が訪れました。

参加者は、「高速インターネットを体験したが、とても便利。いろいろな場所で活用されているので利用したい。」と話していました。